

SMP005-02

会場:201B

時間:5月23日 14:30-14:45

## 室戸斑礫岩非変質ガラスに認められたスーパーサブダクション組成 Supra subduction zone chemistry of intrusions into a Miocene accretionary prism, south-west Japan

遅沢 壮一<sup>1\*</sup>, 新城 竜一<sup>2</sup>, 佐々木 実<sup>3</sup>, 石川 賢一<sup>1</sup>, 伊藤 嘉紀<sup>1</sup>, 渡邊 康志<sup>4</sup>, John Wakabayashi<sup>5</sup>

Soichi Osozawa<sup>1\*</sup>, Ryuichi Shinjo<sup>2</sup>, Minoru Sasaki<sup>3</sup>, Kenichi Ishikawa<sup>1</sup>, Yoshinori Ito<sup>1</sup>, Yasushi Watanabe<sup>4</sup>, John Wakabayashi<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 東北大学理学研究科地学専攻, <sup>2</sup> 琉球大学, <sup>3</sup> 弘前大学, <sup>4</sup> GIS 沖縄研究所, <sup>5</sup> California State University, Fresno

<sup>1</sup>Tohoku University, <sup>2</sup>University of the Ryukyus, <sup>3</sup>Hirosaki University, <sup>4</sup>GIS Okinawa Laboratory, <sup>5</sup>California State University, Fresno

室戸斑礫岩に付随する玄武岩岩脈の急冷ガラスは、付加体構成岩としては例外的に非変質で、成分移動は無視できると考えられる。微量分析したところ、REE パターンは同時に分析した箱根 JB-1 スタンダードサンプルに全く重なり、明らかに MORB と区別される。また、MORB 規格化パターンもそれと区別できない、島弧パターンをもっている。従って、室戸斑礫岩は伊豆小笠原弧そのもの、あるいは類似の沈み込み帯セッティングでの産物と見なされるが、両者を地質学的に直接対応させることは難しく、現実はより複雑である。オフィオライトで提唱されている超沈み込み帯類似の環境が、島弧組成の火山岩、しばしば酸性岩も伴う付加プリズム形成にも必要で、海嶺沈み込みスタックモデルを提唱する。付加体玄武岩には島弧組成は必ずしも稀ではなく、このような環境は中新世以外にも、しばしば起こった。

キーワード: 室戸斑礫岩, 玄武岩岩脈, 非変質ガラス, 箱根 JB-1 スタンダードサンプル, カルクアルカリ, 伊豆小笠原弧

Keywords: Muroto gabbroic suite, basaltic dike, fresh glass, Hakone JA-1 standard sample, calc-alkaline, Izu-Bonin arc